

令和2年度 学校自己評価システムシート

(県立所沢高等学校定時制)

目指す学校像	多様な生徒一人一人に相応し、社会的自立を促す親身あふれる温かい教育
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業を大切にし、学習意欲を向上させ、基礎学力を定着させる 2 家庭や地域との連携を強め、教育活動を一層充実させる 3 学校行事等の多様な学びの機会を通じて、社会人として自立できる力を育成する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日 令和3年2月19日
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	<p>現状 多様な外部人材を活用し、丁寧な指導を行って欠点保有者数の減少を進めている。</p> <p>課題: 生徒個々が抱えている課題を丁寧につかんだ上で指導・支援を継続させることが求められる。その中で、生徒の学習意欲を向上させられる授業の実施が必要である。</p>	授業の工夫改善を行い、生徒の基礎学力の向上を進める。	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の学習環境をとらえ、面談・補習等の支援を適宜実施する。 ②生徒個々の状況を踏まえ、学習指導を適切に行う。 ③教員の授業力向上を目指し、授業内容の改善を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①個人面談や補習等が必要に応じて行われているか。生徒の欠点保持者数や欠点総数が減少しているか。 ②欠点保持者数や欠点総数が減少しているか。 ③授業公開期間等の機会を活用し、教員が相互に授業力を向上させることにつなげられたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校再開当初に面談を実施したほか、考査時をはじめ不定期に補習を実施した。また、高校生自立支援事業を活用し、全校生徒に対し面談を実施した。 ②1・2学期末の欠点保持者は長欠者を除きのべ13名、欠点総数は計31個であった。(令和元年度ではのべ17人34個) ③長期にわたる臨時休業期間及び感染症予防対策を踏まえ、プリント学習やプロジェクターを活用した授業など授業方法を工夫できた。 ④生徒個々に対応したきめ細かな指導により、基礎学力の向上が進んでいる。達成度はほぼ達成。 	A	<ol style="list-style-type: none"> ①臨時休業期間の長期化により課題を抱えている場合もあり、それを様々な視点から読み取り、学習意欲向上につなげていく必要がある。 ②欠点保持者数をより減少させるために、更にきめ細かい学習指導を意識していく。 ③ICT機器の活用方法を研修し、生徒に対して適切な活用方法を検討し、あわせて授業力向上につなげていく。
2	<p>現状 市内及び県で実施されている進学ガイダンスへの参加や、本校での学校案内を通して学校理解が進んでいる。</p> <p>課題: 生徒・保護者への連絡体制の充実や、中学生への情報提供を更に進める必要がある。</p>	開かれた学校づくりを目指して、様々な情報発信を行う。	<ol style="list-style-type: none"> ①ホームページを活用し、生徒・保護者への連絡や地域等への情報提供を実施していく。 ②入学希望者をはじめとする中学生や保護者への資料提供をさらに進める。 ③安心安全な学校生活のために、巡回指導を継続し、家庭等との連携も行きながら健康観察等を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒や保護者に必要に応じた連絡事項をホームページ上に掲載できたか。また、学校行事等を定期的にホームページ上に掲載できたか。 ②市及び県主催の説明会への参加や、中学生等対象の学校案内を実施できたか。 ③必要に応じた校舎内外の巡回指導や生徒への健康観察が実施できたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①臨時休業期間中は毎週、学校再開以降も毎月複数回学校ホームページを更新し、連絡事項を公開した。学校行事は例年とは異なり様々な制約の中で実施したため掲載を見送った。 ②市内高校合同説明会に参加し、中学生の保護者に本校及び定時制の概要について紹介した。また、希望者に対して随時学校案内を行った。 ③教職員で分担し、日々巡回指導を実施した。また、家庭と連携し感染症予防対策として生徒の健康状況を毎日記録・提出させた。 ④説明会等が中止となる中で、可能な限り情報を定期的に提供した。達成度はおおむね達成。 	B	<ol style="list-style-type: none"> ①地域に対して学校ホームページによる情報発信をさらに進める。生徒や保護者への連絡手段について複数確保できるよう検討していく。 ②定時制の概要を少しでも伝える機会を増やし、正しい情報を伝えていく。 ③特に生徒の健康状況をよくつかみ、安心安全な学校生活が送れるよう注視していく。
3	<p>現状 学校行事や外部人材の活用によって、生徒は多くの学びを得ている。</p> <p>課題: 中学校まで不登校であった生徒や外国につながる生徒の人数が増えていることで、卒業後の進路を見越した在学中の支援の在り方に課題がみられる。</p>	卒業時の自己実現に向けて、在学期間の指導・支援を充実させる	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ、学校生活に取り組みせていく。 ②高校生自立支援事業を活用し、生徒に様々な視点からの自立意識の向上につなげる。 ③就職支援アドバイザーを活用し、キャリア教育を進めることで生徒の進路実現を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校生活に対して積極的に取り組むことができたか。 ②高校生自立支援事業を適切に活用し、生徒一人一人が自分を見つめ、自立意識を向上させられたか。 ③卒業学年の生徒たちが、希望する進路を実現させることができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①出席停止を除き、2学期末までの出席率は88.7%であった。学校行事も制限のある中ではあるがほぼ実施できた。 ②担当する若者サポートステーションと連携し、ソーシャルスキルトレーニング等を校内で予定回数実施することができた。 ③進路講演会など集団で行うことが困難だった中で、2学期末で希望者の75%が進路先を決めることができた。 ④限られた教育活動ではあったが、生徒各々の学びにつながっている。達成度はおおむね達成。 	B	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒個々に状況に応じて適切な指導を行い、学校生活が充実したものとなるよう支援する。 ②外部人材を活用し、在学中折に触れ卒業後の進路を生徒に意識させていく。高校生自立支援事業が継続できるか不透明のため、年度単位の内容になってしまい効果がでにくい。 ③就職支援アドバイザーを十分に活用しきれない場合もあるが、可能な中で生徒たちの進路選択にあたって情報をしっかり提示し続けていく。

学校関係者からの意見
・要望・評価等

- ・様々な時間を活用して指導している。個別対応や多文化にも積極的に対応している。
- ・社会の変化に対応できるよう指導をお願いしたい。
- ・教材等の工夫により、生徒の興味や関心が高められると良い。
- ・生徒にとって先生方とのコミュニケーションは有意義で貴重な時間になっているのではないかと。
- ・多文化共生推進員等、外部人材の支援はよい。

- ・給食の提供等感染症予防の面からも努力されているのがうかがえる。
- ・世の中で生徒数の減少が進行しているが、定時制は高い存在意義がある。
- ・様々な状況の中学生等にとって、定時制の良いところのアピールは、今後重要になってくるのではないかと。
- ・近隣の方は、学校の様子を見ているものである。大切にしてください。
- ・HPは大切な学校アピールの材料になるのではないかと。

- ・ICT等が進んでも対面指導の利点や生徒が来られる場所の確保をお願いしたい。
- ・今後、厳しい就労状況が来ることが考えられる中でも適切な指導をしてもらいたい。
- ・新型コロナウイルス感染症対応の関係で様々な制約がある中で対応しているようである。
- ・生徒の自立意識の向上につながる機会を作ることは必要である。